百五十周年・閉校にあたって



江住小学校150周年・閉校記念事業実行委員会　委員長
江住小学校育友会　会長

山形　勇真

150年という長く深い歴史を積み重ねてきた江住小学校。そんな小学校に6年間通い卒業をすることができたこと、そして150周年をすぐ近くでお祝いできることを嬉しく思います。

記念式典の開催や記念誌を作るために立ち上げられた実行委員にも、実行委員長として携わることができて本当に光栄でした。皆さんのアイデアや行動がこうして一生モノの形として残せたことを誇りに思い感謝しています。

この記念誌を作る過程で、江住小学校に通っていた当時を振り返っていました。あの頃は特に運動に力を入れていた影響か、リレーやマラソン・一輪車・縄跳びといった競技を生徒一人ひとりが6年間ずっと一生懸命になって挑戦していました。これらを通じて、できない悔しさとできた時の喜びや達成感を得ることができ、大人になった今ではこの学びを根底に悔しさをバネにしたり時には立ち止まって方向転換してみたり挑戦する喜びを実感しながら生きています。

インコやリス、熱帯魚なども学校で飼育をしていて、当番に分かれて世話もしていました。役割を分担することの大切さや生き物の命の尊さを学ばせていただきました。楽しいことと同じくらい苦しかったことも多かった江住小学校での生活のおかげで今の私があります。

同時に、江住小学校が今年度で閉校となり寂しい思いもあります。私や私の息子と娘もこの江住小学校でお世話になり、これからもずっと続いていくのだろうと漠然と思っていたのですが、これも時代なのだろうと感じています。私を含めこの江住小学校で学んだ皆さんも学校への敬意と感謝の気持ちでいっぱいであることでしょう。

創立150周年を迎えた歴史ある江住小学校を心からお祝い申し上げます。同時に150年間本当にお疲れ様でした。

最後になりましたが、長きにわたり江住小学校に多大なるご協力、ご支援を賜りました地域の皆様、教職員の皆様をはじめ多くの皆様に心から感謝の意を表します。

また、この度の記念事業に際し全面的なご支援を賜りました木村奨学会様はじめ、お力添えいただいたすべての皆様に心より厚く御礼申し上げます。



すさみ町長

岩田　勉

平素は江住区・江須の川区・里野区・大鎌区の皆様方には、すさみ町行政にご理解・ご支援をいただきまして厚くお礼申し上げます。

このたび、江住小学校が令和５年３月31日をもって閉校する運びとなりました。すさみ町では過疎化や少子化の進行により児童生徒数の減少が続いております。最近では平成29年に見老津小学校、江住中学校が閉校し、そして今回は、江住小学校が周参見小学校と統合することになりました。

150年の歴史と伝統のある江住小学校としての使命を終えることは、すさみ町のまちづくりにとりましても大変残念なことであります。昭和23年には全校児童数349名を誇りましたが、約70年後の令和元年度には９名と激減しています。児童の社会性の育ち、授業実施、教職員組織体制など学校運営上大変な困難を抱えており、用務員・養護支援員等を町費で補填するなど、町としても可能な限り支援して参りました。保護者や地域の方々が、「閉校は大変寂しいが、教育環境の充実したところで多くの友達と学校生活を送ることが児童のためになる。」との判断にたち、統合を決断されたと聞いております。

当町では、第５次すさみ町長期総合計画に基づき「全ての町民が『今後も住み続けたい』と考え、町外の人からは『住んでみたい』『もう一度行きたい』と思っていただけるまちづくり」を基本方針とし、2045年の町の将来推計人口約1700人を目標に以下のような取組を進めています。南海トラフ巨大地震への備えとして公共施設の高台移転、避難タワーや避難所の建設、子育て支援として小中学校の給食費無料、高校通学費等の助成、18歳までの医療費の無料化などです。今後も安心して当町で子育てしていただけるよう環境整備に取り組んで参ります。

学校沿革史等によりますと、江住小学校は明治６年に創立。江須之川小学校と合併、見老津小学校の独立、里野小学校、大鎌小学校の統合等の変遷を経ながら今日に至っています。平成19年の児童数は25名で、平成19年度より完全複式校となっています。なお、現在の校舎は昭和47年に完成しました。そして、今年度は学校創立150周年にあたります。奇しくも閉校と学校創立150周年が同年になったわけですが、児童や保護者、地域住民とともに、地域の学校として歩み、その使命を果たし終え、本日を迎えるに至りました。なお、跡地の利用につきましては、江住区の活性化に役立つように努めて参ります。

いよいよ令和５年４月からは心機一転、新しい学校で新しい友達をたくさん作り、切磋琢磨しながら元気いっぱい楽しい学校生活を送ってくれるものと期待しております。

最後になりましたが、本校教育の充実・発展に尽くされました歴代の校長先生・教職員の方々、並びに学校の応援団でありました保護者・地域の皆様方に深甚なる敬意と感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。



すさみ町教育委員会　教育長

坂本　祐二

すさみ町立江住小学校の閉校にあたり、すさみ町教育委員会を代表いたしまして、ご挨拶申し上げます。平素は町の教育行政にご理解・ご支援をいただきまして厚くお礼申し上げます。

このたび、江住小学校は令和５年３月31日をもって閉校し、周参見小学校と統合することになりました。すさみ町では少子化による児童生徒数の減少等により学校統合問題に取り組んで参りました。町教育委員会は平成19年３月に「すさみ町小中学校統合問題検討委員会」を設け、学校統合についての検討をお願いしました。その結果「小学校１校、中学校１校が適正である」との答申を受けました。それを基に「すさみ町学校統合計画」を策定し、「児童生徒の教育環境の整備を図り、総合的な教育効果の向上を目指す」ことをねらいとして、学校統合を進めて参りました。

歴史と伝統のある地域の学校を閉じることは、地域の文化の拠点がなくなることであり、地域住民の学校への思い、学校が地域において果たしてきた役割、学校と地域の密接な関係、児童や保護者の思いなどを考えると、大変悩ましく切実な課題であります。

しかし、町議会をはじめ保護者や地域の方々と話し合いを続ける中で、「150年続いてきた学校を閉じることは大変寂しいが、児童のことを第一に考えると統合はやむを得ない。より充実した教育環境の整備を図り、総合的な教育効果の向上を目指していくことが児童の将来のためになる。」との最終判断をいただきました。

学校沿革史等によりますと、江住小学校は明治６年に創立。江須之川小学校と合併、見老津小学校の独立、里野小学校、大鎌小学校の統合等の変遷を経ながら今日に至っています。平成19年の児童数は25名で、平成19年度より完全複式校となっています。なお、現在の校舎は昭和47年に完成しました。そして、今年度は学校創立150周年にあたります。奇しくも閉校と学校創立150周年が同年になったわけですが、児童や保護者、地域住民とともに、地域の学校として歩み、その使命を果たし終え、本日を迎えるに至りました。このことは、今までの取組を振り返ってみると、関係者一同、誠に感慨深いものがあります。

令和５年４月から周参見小学校の一員として、新しい友達をいっぱい作り、学習や運動を競い合って笑顔かがやく学校生活を送ってくれることを切に願っております。

最後になりましたが、本校教育の充実・発展に尽くされました歴代の校長先生はじめ教職員の方々、並びに学校を支援してくれました保護者・地域の皆様方に深く感謝申し上げ、ご挨拶といたします。



すさみ町立江住小学校　校長

山口　仁美

眼前に広がる熊野灘、遥か彼方に見える潮岬。この素晴らしい景色を目にしたあの日、この学校で校長として初めて勤務できる喜びに私は胸が震えました。

着任後、南弥右衛門像周りで遊ぶ子どもたちが南氏のことをあまり知らないことを知り、せめて敷地内にある銅像や石碑の由来は知っておいてもらいたいと２年生～６年生までの全校児童９人と劇「南弥右衛門物語」を創作しました。幸い「南弥右衛門物語」は、江住・里野・江須之川の地域学習発表会やすさみ文化祭、最後はＢｉｇ-ｕで開催された県教育委員会のフォーラムでも約200人の観客を前に披露することができました。初めての大舞台で９人の子どもたちは力一杯演技し、全員で歌う校歌が会場いっぱいに響きました。

こうして、２年目は私財を投じ熊野私学校を創設した城桂谷先生の劇「城桂谷物語」を、３年目は江住の子どもたちが登校の際に登ってくる階段が昔は「お待ちの坂」と呼ばれていたと聞き劇「お待ちの坂物語」を、４年目は本校の150年を振り返る劇「江住小学校物語」を子どもたちや先生方と創作し、地域学習発表会で発表しました。

脚本を書く際に校長室にあった江住小学校百年史をじっくり読み返しますと、学校の歴史だけにとどまらず地域の歴史や文化が生き生き描かれていることに驚きます。150周年の節目にもぜひ学校、地域の歩みを後世に残したいと百年史の編集責任者でもあった小倉重起氏に相談し実行委員会の皆様のご協力を得ながら記念誌を発刊することができました。とりわけ小倉氏から多くのお力添えをいただけたことは本当にありがたいことでした。

この４年間で本校と地域の歴史について調べ記念誌の編集にも携わりながら強く感じることは、この地域の「人を育て教育することに対しての惜しみない支援と情熱」です。着任して１年が過ぎようとした頃、コロナ禍での学校運営が全国で始まりました。そして、令和４年２月にロシアのウクライナ侵攻が始まり、今なお世界は混迷の時代の最中にいます。日本は少子高齢化による影響がいよいよ目に見えて生活に迫る時代に入ります。

先の百年史で当時の校長古田耕次先生が「およそ歴史は『昨日を知って明日を夢みる』ためにこそ意義がある」と記されています。今こそ先人に学ぶ時です。こんな時代だからこそ歴史から深く学び、「人を育て教育すること」にあらゆる叡智や支援を惜しみなく注ぐ時ではないでしょうか。

私たち教職員は、貴重な最後の時に本校に奉職できましたことを心から誇りに思い、この地で学んだ教育への真摯な思いをしっかりと受け継いでいきたいと存じます。

最後にこの150年間、本校の教育活動にご支援ご尽力いただきましたすべての皆様方に厚く感謝を申し上げご挨拶といたします。とりわけ、木村奨学会様には150周年・閉校記念事業にあたり多大なご支援を賜りました。心より深く感謝申し上げます。